

フランス研修を通じて私たちが感じたこと

大庭ゼミ 4年 宮下朋 山本初花 喜多川舞菜

(宮下)

保育園児や小学生と折り鶴と一緒に折る活動を通して、言語が通じなくても表情や身振り、手振りなどで分かり合えることを知った。翻訳機に頼る必要がある場面はもちろんあると思うが、携帯を通してではなく目の前にいる子どもと直接対話・会話することがお互いを理解する上で重要なのではないかと思った。私が一生懸命折り方を教えている事を子どもたちは感じ取ってくれたのだと思うが、教師になる上で、指導要領通りに授業を進めるのではなく、こちらが子どもにこんなことを学んで欲しい、感じて欲しいと願いを込めて、一生懸命に授業をすることが大切なのであり、子どもと共に学ぶということなのではないかと感じる瞬間であった。

また、特に驚いたのは、12日に訪れた乳児保育所での屋外保育である。室内よりも室外のスペースが広く、遊び、食事など雪の日以外活動は屋外が基本であり、雨の日でも外で食事をしていると伺った。鳥のさえずりや太陽の温かさ、風の冷たさなどを5感で感じながら活動している子どもたちは、凄く生き生きしているように見えた。そして、お話を伺う中で先生方が1つ1つの活動の目標や屋外保育の重要性や必要性を理解していることが感じられ、子どもたちをただ好きに遊ばせる訳ではなく意図を持って活動させたり、子どもたちに何か準備させたりすることは子どもも教師も有意義な時間を過ごせると思った。

フランス研修を通して、関わってくださった全ての方が私達の研修のために教師としてだけでなく、人としても様々な学びの場を下さったことに感謝いたします。また、小学校、保育学校、乳児保育所に訪れた際は、丁寧に各学校について説明して下さったり、UNESCOに訪れた際は、施設の見学や幼児教育担当責任者の方とお話しする時間をいただけたりしました。そして、休日には様々なところに案内して下さったり、南仏では伝統的な遊びであるペタンクも経験させていただいたりして、充実した時間を過ごすことができました。私はまだ皆さんにいただいた恩を返すことができていないため、まずは身近な人に、そして、交流した学生の方が広島に来たいと言っていたため、その方が広島に来た際には今回の研修で関わった方と同じように振舞えるようにしていきたいと思います。さらに、先生方の考え方や子どもたちと向き合う姿勢は見習うものが多く、このような先生方になり、子どもたちにより良い教育や支援をしていきたいと思いました。そのため、自分に何が足りないのか、来年の4月にどのような姿で子どもたちの前に立ちたいのかを考え、これからの教育に活かしていきたいと思えます。

(山本)

実際にフランスに研修に伺ったことで、フランスでの子どもへの対応の良さをひしひしと感じた。3月6日に屋外保育に同行した際、町の人たちは子ども達に微笑んだり、横断歩道を渡りきるまで車の運転手は笑顔で待っていたりと、大人たちが子どもを見守る姿勢がよく見られた。パリでは、地下鉄に乗ったとき、おもちゃで遊ぶ子どもを他の乗客は見守っていて、地域ぐるみで子どもを育てていこうという姿勢が見られた。フランスは教育の中でも、子どもを中心に考えており、子どもが自発的やりたいことを基に教員や支援員、環境から支援していく方法をとっている。子どもを中心に考えているフランスだからこそ、子どもの主体的な学びが十分に達成できていると感じた。自発的な活動ができる環境の設定が十分な為、子ども達も生き生きと活動を行なっていると感じた。日本の教育は、教育システムが出来てから子どもがその教育方法に従う形になってしまうことが多く、これまでの授業の中でも主体的な学びに向けた話し合いを沢山行ってきた。フランスで見た子どもの自主性を尊重する教育は、初めて見るものばかりで、実現することを実感した。今回実際に見たフランスの教育方法を参考にしながら、子ども中心の教育ができる教員を目指したいと考えた。

またフランスだからこそできる芸術教育は特に印象に残った。フランスには伝統的な建造物が至る所にあり、セヌ川クルーズで見た風景は言葉を失うほどにきれいだった。見学した多くの学校では、エッフェル塔や美術館に展示された美術作品を基に子ども達が制作した作品が飾られており、廊下がまるで美術館のようだった。伝統的な建物や壁に描かれたグラフィックアート等の周囲の芸術を活かして子どもの創造力を促進させる教育は画期的なものだった。研修中、フランスの方々と関わる中で、日本の伝統的な和柄や建物などの文化を褒める声もいただいた。日本の独自の文化も芸術活動に取り入れられないか検討する価値はあるのではないかと考えた。

フランス研修で世界の教育に触れたことで、日本の教育を第三者視点で見るときっかけとなった。現在抱えている日本の教育の課題点や日本だからこそできる教育方法等改めて考えることができた。フランス研修で出会った先生方は子どもを1番に考え、どのような支援を行えば子どもは幸せになるのか沢山の検討を重ねていた。私も子どもが主体的に楽しんで学べるような授業を設計できる、子どもを中心に考えられる先生を目指していきたい。

最後に、フランス研修は多くの人に助けられ、充実した学びを得られました。南仏では、宿泊の用意や送迎を全てしてくださり、トゥーロンの様々な伝統的な名所やスポーツ、食事に触れる機会をいただき、大変貴重な経験をさせていただきました。パリでは、1週間宿舎を貸していただいたソルボンヌ大学、UNESCO への見学を受け入れてくださった方々、様々な伝統名所や歴史を教えていただき充実した研修となりました。特にパリの街を回りながら、建造物や伝統名所の知識を教えていただき、観光では知ることができないことも学ぶことができた貴重な経験になりました。研修を通して、見学を受け入れてくださり学びの機会を与えてくださった保育所・学校の先生方、紙芝居や平和の手遊び、折り紙等の実践を積極的に活動してくれた子ども達、関わったすべての方々に感謝したいと思います。フランスの方々の支援、そして大庭先生の指導により充実した研修になりました。この研修をもとに良い先生を目指して研究、学習を続けていきたいと思っています。

(喜多川)

フランス研修を通して、子ども主体の教育・保育が行われていること、言語の壁を越えた交流ができることを改めて考える機会になった。保育の視点から見た時、日本の保育現場でも一人一人の興味・関心に合わせた関わり方を重要視した保育を行うための保育指導案が考えられるが、あくまで全体活動の中で個別化を重要視したものが多く根本的に子どものしたいことに寄り添った保育を行っているものではないと感じた。比較してフランスの保育では自分でしたいことを選べる環境が整っており、より子どもの主体性の中で保育者の援助により様々な能力を身につけ発達している。例えば同じ人形遊びでも複数の他国籍の人形や服が置かれており、日本と比べて様々な国籍の子どもがいるからこそ見られる環境構成であると感じた。小学校を訪問して机の配置や教材の作り方など日本ではあまり見られない形であり、学年混合のクラスの教室もあり、学年に応じた机の配置がされ混合クラスでもお互いの勉強を邪魔しない環境づくりがされていると分かった。また、クラス全体で一斉に進め、振り返る形ではなく一人一人のペースでしっかり考える形の授業をしており、一人でしっかりと考えられる時間を取れるようなワークシートで授業を進めるなどをしており一人一人の学習を重要視していると感じた。

平和学習を通して、言葉が通じない難しさもあったが、言葉が通じなくても折り鶴と一緒に作れた楽しさ、同じ空間を共有した楽しさを感じることもできた。言葉でのコミュニケーションも大事ではあるが、身振り手振り、表情でのコミュニケーションも経験し改めて非言語コミュニケーションの重要性を学ぶことができた。手遊びも効果音をつけ、子どもの目を見ながら一緒にすることで興味を持ち真似をするなど日本の子ども達と子どもの姿に大きな違いを感じなかった。そのため国籍が違うからと必要な支援はあっても、関わり方を変える必要はないと感じた。直接戦争や自然災害などを経験していなくても平和について考えるきっかけを作り出すことは教育現場にとって必要なことであり、偏った「良い悪い」の考え方ではなく平和とはどういうことか、これからの私たちが平和の心を持ち続けていくためにより多くの国に平和学習を広げていく必要があると思う。

保育者や教師がいかに子どもの興味の持てる環境を構成するのか、子どもの興味関心に向き合えるかが子ども理解に繋がるのではないかとフランス研修を通して改めて感じた。また現状、日本での指導案やカリキュラムに沿いながらもどのように教育や保育を展開していくのか、教師・保育者の力量や学校・園の方針などを見直していく必要があるのではないかと考える。

最後にこのフランス研修を通して、多くの施設を訪問するにあたって機会を用意して下さった方や受け入れて下さった方々、積極的に参加してくれた子ども達や学生に感謝します。また、休日にもかかわらず様々な場所を案内して下さった方や、宿舎を用意して下さった方、送迎の用意などフランス研修にあたって様々なことを用意して下さった方に感謝申し上げます。フランス研修の中で、料理や建物・遊びの文化、歴史を直接肌で感じるだけでなく、多くの事を事細かに教えてくださりより深い知識として得ることができとても貴重な経験となりました。改めて今回のフランス研修で多くの方の配慮によって日本では経験できないこと、直接目にして学ぶことができたことを感謝します。この経験を受けるだけでなく、提供する側として何ができるのか、どのように行動していくべきなのか改めて考える研修となりました。この経験を活かし、より人として成長していけるよう目指していきます。

